

新潟大学工学部同窓会 悠久会へのお誘い

新しく入会される皆様へ



令和 7 年 4 月

〒950-2181 新潟市西区五十嵐 2 の町8050

新潟大学工学部・悠久会館

Tel/Fax 025-262-6717

E-mail : jimlib@eng.niigata-u.ac.jp

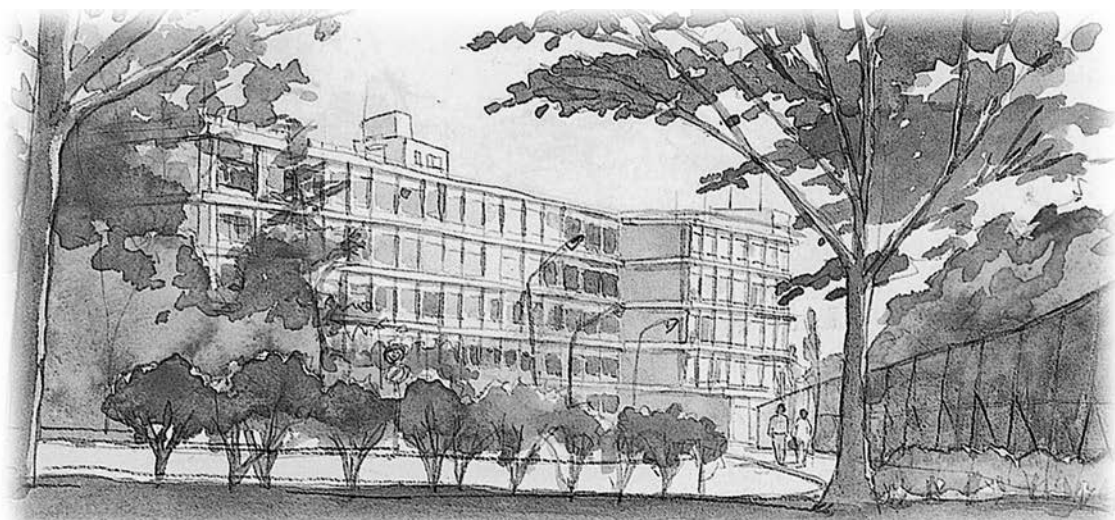
URL : <https://www.eng.niigata-u.ac.jp/~yukyukai/>

悠久会 HP



目 次

歓 迎 の こ と ば	1
新潟大学工学部同窓会「悠久会」とは	2
悠 久 会 の 活 動	3
新潟大学工学部同窓会会則	4
各 県 別 会 員 数	6
最近の悠久会会員の進路	7
「悠久会時報」より	14
新潟大学工学部の歩み	17



- 表紙説明：上 「ロボコンプロジェクト」NHK学生ロボコン大会2024に出場し、ベスト4、特別賞を受賞しました。
- 左下 「CANSATプロジェクト」アメリカ・ネバダ州で開催されたARLISS2024に参加。Accuracy Awardを受賞しました。
- 右下 「学生フォーミュラプロジェクト」学生フォーミュラ日本大会2024に出場しました。

歓 迎 の こ と ば



新潟大学工学部同窓会（悠久会）

理 事 長 寺 尾 正 義（電52）

新入生の皆さん合格おめでとうございます。また、この歴史ある工学部に入学されました事に心からお祝い申し上げます。

ご存じのように日本国の社会・経済環境は少子高齢化という、大変難しい局面でのかじ取りを強いられております。この事は、つまり好むと好まざるとに係わらずグローバル化の波に洗われることを意味していますし、必然的に一国を超えた国際的な対応力やビジネス感覚が求められている事をも意味しております。

皆さんが学生時代に身につけなければならない事は、基礎的な学問的部分は当然として、変わり行く時代への対応力と国際感覚です。そのあたりの情報収集には、新聞・マスコミに拘わらず、家族や諸先輩並びに同窓会など幅広いネットワークを通じて、自分自身の将来像をじっくり考える時間を持って下さい。

新潟大学工学部には毎年、就職希望者数を大幅に超える求人数があり、ほぼ全員が希望する就職先を得ています。この事は皆さんの努力が最大の理由である事はもちろんですが、多くの卒業生やOBの諸先輩が築いてくれた遺産の部分も少なくありません。

皆さんは入学と同時に入会金を納めますと、自動的に工学部同窓会（悠久会）の会員（学部生のうちは準会員）となりますが、この事は約32,000人の同窓生のネットワークに仲間入りすることを意味していますし、同時に全国の同窓生・諸先輩が築いた遺産を受け継ぐことにもなります。

また、本同窓会の活動は極めて活発で、独自の奨学金制度を確立しています。また、地元県内企業の就職相談やUターン就職支援などの相談窓口機能も備えることを検討しており、会員のために役立つ色々なことを行っております。

新入生の皆さんには信頼できる悠久会として、生涯に渡り有益に活用する事が出来ますので、どうか安心して入会し、少しでも豊かな学生生活を送れるように活用して下さい。

将来、新入生の皆さんが、新潟大学工学部に入学しそして悠久会に入会し本当に良かった、と思える事を確信しております。

新潟大学工学部同窓会を代表して、同窓会への入会を心より歓迎致します。

新潟大学工学部同窓会「悠久会」とは

- ・新潟大学工学部の在学生や卒業生、工学部の先生が会員です。会員数は約32,000名。
- ・同窓会本部事務所は工学部の中にあり、「悠久会」とも呼びます。
- ・同窓会の名誉会長は**工学部長**です。
- ・新潟大学工学部の卒業生である先生方が同窓会活動を手伝っています。

新潟大学工学部卒業生の連携と親睦を深め、それとともに新潟大学工学部の発展と社会・産業の発展に貢献することを目的としています。

全国各地に28支部あり、先輩がそれらの支部長となっています。

多くの会社にながて大学工学部同窓会の組織があります。

各支部や各会社で工学部同窓会の懇親会などがあります。

同窓会で役立つことは

- ・就職に役立っています。同窓会の先輩が活躍している一流企業や有名企業、地元企業からの求人が多くあり、新潟大学工学部の卒業生を求めています。
- ・就職してから、先輩後輩のネットワークで有益なことが多くあります。
- ・大学時代の友達や同級生だけでなく、工学（専門）分野の広いネットワークが活用できます。
- ・専門分野のつながりが他の企業の方とも幅広くできるので便利です。
- ・同窓会は、異業種・異分野間の人的交流の場です。新しいアイデアのヒントが得られるはずです。
- ・将来、皆さんが各分野で指導的立場に就いたときに、必ず役立ちます。

悠 久 会 の 活 動

1. 新潟大学工学部への支援

母校工学部のために、さまざまな支援を行い工学部の発展を助けています。

例えば、工学部援助金の寄附、工学部創立記念事業への支援、新潟大学工学部の発展に寄与している（公財）新潟工学振興会への支援などを行っています。

2. 卒業祝賀会

毎年、3月下旬頃に「ANAクラウンプラザホテル」などで、卒業生・父兄・教職員の出席のもと、学長も出席され、盛大な卒業祝賀会を開いています。

3. 悠久会時報の発行

母校の近況、同窓生の近況、その他の情報の交換の場として、悠久会時報を年2回発行しています。秋はWEBで閲覧する形で、春は印刷物でお届けしています。

4. 奨学金の貸与

同窓会からの奨学金で、学部生および新潟大学工学部出身の修士課程や博士課程学生の学費を助けています。

5. 学生支援事業

工学部生（工学系大学院生）による独自の活動や取組み、工学部を社会にアピールする学生らしい活動等を対象に、助成金を支給しています。

6. 会員動向の把握

約32,000人の会員の連絡先などを同窓会で管理しています。

例えば、同級会の案内を出したい、就職活動や入社時に先輩に連絡したい、といった際に活用できます。

7. 全 国 総 会

新潟大学工学部の卒業生が一堂に会して、一年間の事業計画を決める大切な総会です。全国総会は毎年7月頃に開催。（開催地は全国各地を巡回します。）

8. ホームページ

悠久会（同窓会）独自のホームページ（www.eng.niigata-u.ac.jp/~yukyukai/）を開設し、卒業生の連携と親睦を強化し、母校の発展に寄与しています。

新潟大学工学部同窓会(悠久会)会則

第一章 総 則

- 第 一 条 本会は新潟大学工学部同窓会（悠久会）と称する
- 第 二 条 本会の事務所は新潟大学内（新潟市西区五十嵐2の町8050新潟大学科学技術交流悠久会館）に置く
- 第 三 条 本会は会員相互の連携と親睦を強化し、併せて母校の発展並びに学術文化の向上と産業の発達に寄与することを目的とし、昭和43年6月23日設立する
- 第 四 条 本会は第三条の目的を達成するため次の事業を行なう
1. 会員相互の連絡と共助に関すること
 2. 母校との連絡に関すること
 3. 産業関係の調査研究並びに奨励に関すること
 4. 工業知識の普及に関すること
 5. 会員名簿の整備を行うこと
 6. その他必要と認める事業
- 第 五 条 本会の目的を達成するため多数の会員が存在する地区に支部を置く

第二章 会 員

- 第 六 条 本会の会員は正会員、准会員、特別会員及び名誉会員の四種とする
1. 正会員は長岡高等工業学校、長岡工業専門学校、新潟大学工学部の卒業生及び新潟大学大学院工学研究科の修了生並びに新潟大学大学院自然科学研究科を修了した者で理事会の承認を受けた者
 2. 准会員は新潟大学工学部の在学学生
 3. 特別会員は母校の現教職員及び旧教職員であって理事会が推薦した者
 4. 名誉会員は学識名望があり本会並びに産業の発展に功績があった者で総会において推薦した者

第三章 役 員

- 第 七 条 本会に次の役員をおく
1. 名誉会長1名、理事長1名、常任理事若干名、理事若干名、監事2名、各支部長
 2. 本会に副理事長をおくことができる
 3. 本会に相談役及び顧問をおくことができる
- 第 八 条 役員は次の如く選任する
1. 名誉会長は新潟大学工学部長を推薦する
 2. 理事長は理事の互選により選出し、総会の承認を得る
 3. 常任理事は理事中より理事長が推薦し、理事会の承認を得る。また、理事長は正会員の中から若干名を常任理事に推薦することができる
 4. 理事は各支部の正会員（以下支部会員という）より選出された者、新潟大学工学部在職中の正会員（以

下支部会員という）より選出された者、及び各支部長とする。ただし、その選出人数は施行細則による

5. 監事は理事会において選出する
 6. 支部長は各支部において選出する
 7. 副理事長は理事中より理事長が推薦し、理事会の承認を得る
 8. 相談役及び顧問は会員中から理事会が推薦する
- 第 九 条 役員の任務は次の如く定める
1. 理事長は本会を代表し、会務を総括する
 2. 理事は理事会を組織し重要事項を審議する
 3. 常任理事は常任理事会を組織し通常の会務を処理し、理事会に提案する諸議案を作成する
 4. 監事は会計及び会務の執行を監査し必要に応じて理事会に意見を述べる
 5. 支部長は支部を代表し、支部の会務を総括する
 6. 副理事長は理事長を補佐し、理事長に事故あるときはその職務を代行する
 7. 名誉会長、相談役及び顧問は会務に関して理事会の要請により意見を述べる
- 第 十 条 理事長、副理事長、常任理事、理事及び監事の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない

第四章 会 議

- 第十一条 会議は総会、理事会、常任理事会及び支部長会とする
- 第十二条 総会は毎年1回理事長が招集する。ただし、事情によって理事会に図った上臨時総会を開催することができる
- 総会で決議する事項は次の如く定める
1. 会則変更
 2. 財産管理及び処分
 3. その他重要事項
- 第十三条 定期理事会は理事長の招集により毎年催し、臨時理事会は必要に応じ随時開催する
- 理事会で決議する事項を次の如く定める
1. 総会に提出する原案の作成
 2. 総会の決議による会務の処理
 3. 経常費予算の認定
 4. 会則施行細則の制定改廃
 5. その他総会の権限外の事項
- 第十三条の二 常任理事会は理事長の招集により、随時開催する
- 第十三条の三 支部長会は各支部長をもって組織し理事長の招集により毎年1回以上開催し、本会の会務を円滑に運営するための意見交換を行なう
- 第十四条 議事はすべて出席会員の過半数をもって決し、賛否同数のときは議長が決する

第五章 会 計

- 第十五条 本会の経費は正会員及び准会員の会費、入会金、寄付金その他の収入をもってこれにあてる
- 第十六条 会費は通常会費または終身会費とし、いずれかを納入する
- 第十七条 通常会費、終身会費及び入会金の金額並びに納入方法については施行細則に定める
- 第十八条 本会の会計年度は4月1日から翌年3月31日までとする

附 則

- 第十九条 会則を施行するに必要な細則は理事会の決議により別に定める

第二十条

1. 本会則は昭和43年6月23日より施行する
2. 本会則は昭和55年5月4日より施行する
3. 本会則は昭和56年7月4日より施行する
4. 本会則は平成元年6月3日より施行する
5. 本会則は平成5年6月5日より施行する
6. 本会則は平成10年7月4日より施行する
7. 本会則は平成15年8月3日より施行する
8. 本会則は平成18年7月8日より施行する
9. 本会則は平成22年7月11日より施行する
10. 本会則は令和6年6月29日より施行する

新潟大学工学部同窓会(悠久会)会則施行細則

役 員

- 第一 条 支部会員より選出される理事と本部会員より選出される理事の選出人数は次の規定による
1. 支部会員より選出する理事は、支部会員200名までは1名とし、200名を越える支部においては、200名ごとまたはその端数毎に1名を追加することができる。ただし、理事長副理事長を選出した支部は、さらにそれぞれ1名を追加することができる
 2. 本部会員より選出する理事については会務遂行に必要な人数とする
- 第二 条 監事に欠員が生じたときは理事会において後任者を選出する
- 第三 条 監事は理事を兼任することができない

会 計

- 第四 条 本会の資産は本部常任理事が保管し、理事長が管理する
- 第五 条 本会計に特別会計を設けることができる

支 部

- 第六 条 支部はその所在地によって新潟大学工学部同窓会何々支部と称し、一定の場所に事務所を置く
- 第七 条 新たに支部を設置する場合はその区域、支部規則案及び支部会員名簿を理事会に提出して承認を受けなければならない
- 第八 条 支部の運営に要する経費は当分の間その支部の負担とする。ただし、本部はその経常費の予算内において理事会の決議を経て、支部に補助金または返還金を交付することができる
- 第九 条 支部は毎年1回以上その活動状況や支部会員異動状況を理事長に報告するものとする

会 費

第十 条

1. 通常会費は年額 金2,000円とする
2. 終身会費は40,000円とし原則として一括納入するものとする
3. 通常会費から終身会費に切り換えても納入済みの通常会費は返還しない
4. 終身会費を増額改定した場合には、その増額分を追加納入するものとする
5. 入会金は金15,000円とし本会入会時に納入するものとする
6. 准会員が退学や除籍により脱会した場合で、終身会費を払い込んである場合には、終身会費から通常会費分を差し引いた金額を返却することができる

会員の個人情報の管理

- 第十一 条 本会は、会則第一章第四条に定めた事業遂行の目的で、会員動向の把握に努める。なお、会員の個人情報は新潟大学工学部同窓会会員個人情報管理規定に基づき、本部において適正かつ公正に管理する

附 則

- 第十二 条 会則及び会則施行細則の適用できない事項が生じたときは、理事会において個々に解決するものとする

第十三条

1. 本会則施行細則は平成10年7月4日より施行する
2. 本施行細則は平成14年7月6日より施行する
3. 本施行細則は平成17年4月1日より施行する
4. 本施行細則は令和6年6月29日より施行する

各県別会員数

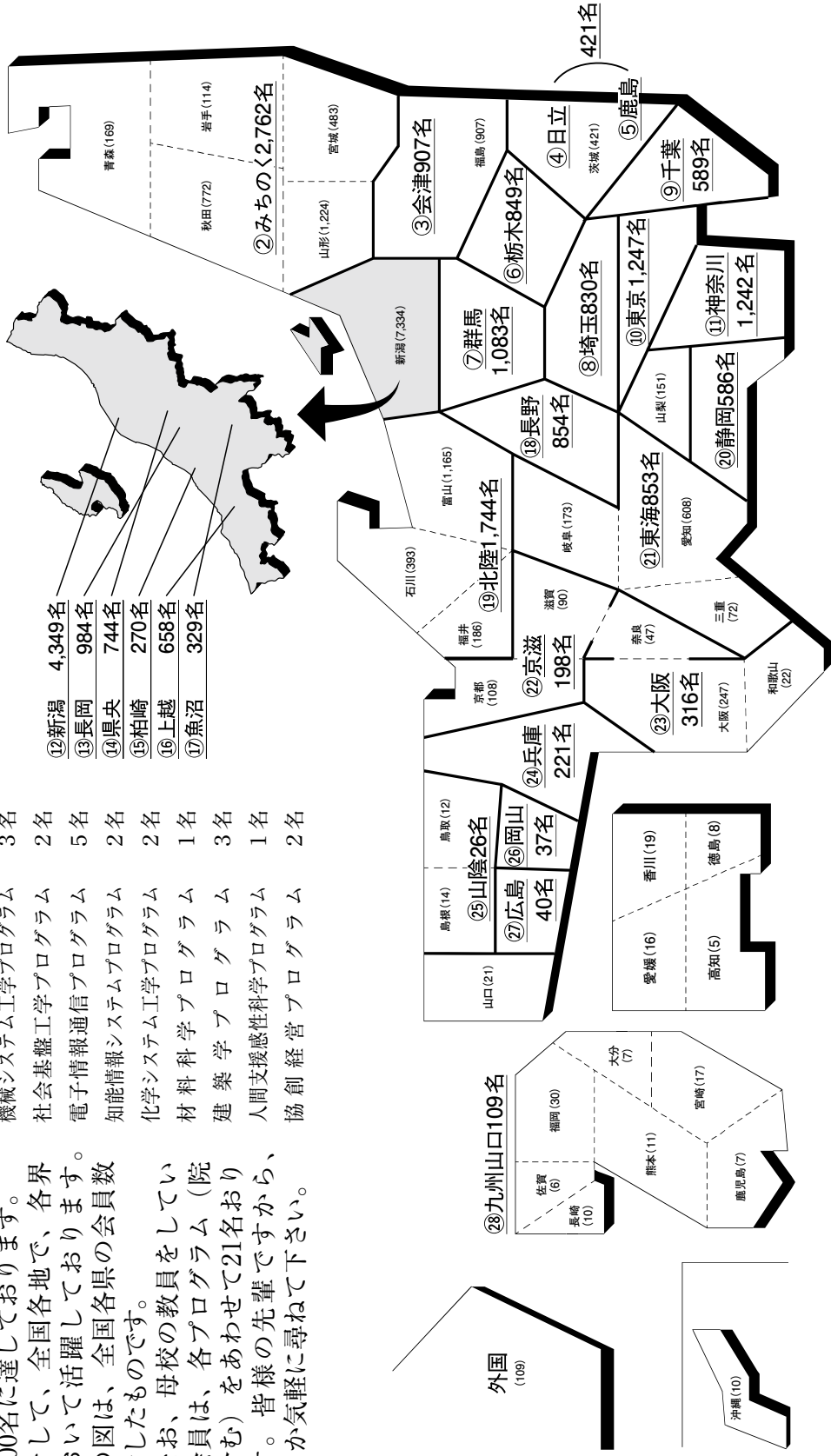
新潟大学工学部同窓会（悠久会）は、現在会員数約32,000名に達しております。そして、全国各地で、各界において活躍しております。この図は、全国各県の会員数を示したものです。

なお、母校の教員をしている会員は、各プログラム（院を含む）をあわせて21名おります。皆様の先輩ですから、どうか気軽に尋ねてください。

新潟大学工学部教員21名

機械システム工学プログラム	3名
社会基盤工学プログラム	2名
電子情報通信プログラム	5名
知能情報システムプログラム	2名
化学システム工学プログラム	2名
材料科学プログラム	1名
建築学プログラム	3名
人間支援感性科学プログラム	1名
協創経営プログラム	2名

新潟大学工学部同窓会 支部配置図 28支部



最近の悠久会会員（新潟大学工学部卒業生・大学院修了生）の進路

学部卒業生の約6割は大学院へ進学しています。例えば、令和6年3月の卒業生546名中の356名が大学院（343名が新潟大学大学院博士前期課程）へ進学しています。

ここでは、悠久会で取りまとめた新潟大学大学院修士課程を修了した悠久会会員の令和2年～令和6年の就職先を示します。今後の参考にして下さい。

博士前期（修士）課程を修了した悠久会会員（新潟大学工学部卒業生）の就職先（令和2年～令和6年）

企 業 名	人数
ア	
(株) ア ー プ	1
(株) ア イ ヴ ィ ス	1
(株) I H I 原 動 機	3
(株) I A I	1
(株) I N A 新 建 築 研 究 所	2
ア イ カ 工 業 (株)	1
(株) ア イ シ ン	1
ア イ シ ン 軽 金 属 (株)	1
(株) あ い 設 計	1
(株) ア イ ソ ル ー ト	1
会 津 オ リ ン パ ス (株)	3
ア イ ビ ー シ ー (株)	1
(株) ア イ ビ ー シ ス テ ム	1
(株)アウトソーシングテクノロジー	1
(株) あ お	1
秋 田 エ プ ソ ン (株)	1
秋 田 県	1
秋 田 指 月 (株)	1
ア キ レ ス (株)	2
ア ク ア ス (株)	1
ア ク セ リ ア (株)	1
ア ク セ ン チ ュ ア (株)	3
曙 機 械 工 業 (株)	1
(株) ア サ カ 理 研	1
朝 日 イ ン テ ッ ク (株)	2
旭 化 成 ホ ー ム ズ (株)	2
(株) ア ス タ ー	1
ア ズ ビ ル (株)	4
(株) A D E K A	2
(株) ア ト ッ ク ス	1

企 業 名	人数
(株)アドテックエンジニアリング	1
ア ド バ ン エ イ ン ジ (株)	1
(株) ア ド バ ン テ ス ト	2
ア ド バ ン テ ッ ク (株)	1
ア ト ム メ デ ィ カ ル (株)	2
(株) ア ト リ エ ブ ン ク	1
(株) ア マ ダ	3
(有)オヤマツ設計事務所	1
(株) 有 沢 製 作 所	6
(株) ア ル ト ナ ー	1
A l p h a T h e t a (株)	1
ア ル プ ス ア ル バ イ ン (株)	16
ア ル プ ス 技 研 (株)	1
(株) 安 藤 ・ 間	1
イ	
(株) イ ー ト ラ ス ト	1
EYストラテジー・アンド・コンサルティング(株)	1
イ オ ン デ ィ ラ イ ト (株)	1
イ オ ン モ ー ル (株)	1
(株) イ シ ダ	1
い す ゞ 自 動 車 (株)	3
(株) い つ 和	1
出 光 興 産 (株)	5
出光ライオンコンポジット(株)	1
伊藤忠テクノソリューションズ(株)	4
岩 谷 産 業 (株)	1
岩 手 日 報 社	1
(株)インターネットイニシアティブ	2
(株) イ ン テ ッ ク	1
(株)インテックソリューションパワー	1
イ ン フ ォ コ ム (株)	1

企 業 名	人数
(株) イ ン フ キ ュ リ オ ン	1
ウ	
(株) ウ ィ ッ ト ス タ ジ オ	1
(株) ウ イ ル テ ッ ク	1
ウ イ ン グ ア ー ク 1 s t (株)	2
ウ エ ス タ ン デ ジ タ ル (同)	5
内 山 工 業 (株)	1
(株) う る る	1
エ	
エ ア ・ ウ ォ ー タ ー (株)	1
E I Z O (株)	2
H.U.グループホールディングス	1
エ イ ブ リ ッ ク (株)	1
(株)エー・アンド・デイ	1
A G C (株)	2
(株) エ ー バ イ シ ー	1
SMBC 日 興 証 券 (株)	1
S C S K (株)	9
SB テ ク ノ ロ ジ ー (株)	3
NECソリューションイノベータ(株)	14
NEC 通 信 シ ス テ ム (株)	1
NECマグナスコミュニケーションズ(株)	1
(株) NS・コンピュータサービス	1
N O K (株)	7
エ ヌ シ ー イ ー (株)	2
(株) エ ス ・ シ ー ・ エ ス	1
N T N (株)	1
(株)NTTデータビジネスシステムズ	1
(株) エ ヌ デ ィ ー テ ッ ク	1
NTT コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ズ (株)	1
NTT コ ム ウ ェ ア (株)	1

企 業 名	人数
NTTコム エンジニアリング(株)	1
(株) N T T デ ー タ	3
(株) NTT デ ー タ・ア イ	4
(株) NTT デ ー タ SMS	1
(株) NTT デ ー タ MSE	1
(株) NTT データ MHI システムズ	1
NTT データ 先端 技術 (株)	1
(株) NTT データ フロンティア	1
(株) N T T ド コ モ	2
N T T 東 日 本 (株)	19
(株) NTT ファシリティーズ	2
E N E O S (株)	3
(株) 荏 原 製 作 所	1
(株) F B S	1
MCC アドバンスト モーリングス(株)	1
遠 藤 工 業 (株)	1
(株) 遠 藤 製 作 所	1
オ	
王子ホールディングス(株)	4
オーエムネットワーク(株)	1
オ ー ク マ (株)	2
(株) 大 塚 商 会	1
大 塚 製 薬 (株)	1
(株) オ ー ネ ス ト	1
大 野 精 工 (株)	1
(株) 大 林 組	1
岡 谷 銅 機 (株)	1
沖 電 気 工 業 (株)	4
(株) 奥 村 設 計	1
(株) オ フ テ ク ス	1
オ ム ロ ン (株)	1
オムロン・フィールドエンジニアリング(株)	2
(有) オ ヤ マ ツ 設 計 事 務 所	2
(株) オリエンタルコンサルタンツ	1
(株) オリエンタルランド	1
オ リ ン バ ス (株)	1
(株) オ ル ガ ノ	1
力	
開 発 技 建 (株)	2

企 業 名	人数
加賀東芝エレクトロニクス(株)	1
(株) 柿 本 商 会	1
鹿 島 建 設 (株)	5
亀 田 製 菓 (株)	1
川 研 ファインケミカル(株)	1
川 崎 重 工 業 (株)	7
(株) 環 境 デザイン 研究所	1
関 西 電 力 (株)	1
関 東 電 化 工 業 (株)	2
(株) 管 理 シ ス テ ム	1
キ	
キーサイト・テクノロジー(株)	1
キ オ ク シ ア (株)	8
北 野 建 設 (株)	1
(株) キ ッ ツ	2
キ ヤ ノ ン (株)	8
キヤノン IT ソリューションズ(株)	1
キャノンイメージングシステムズ(株)	16
キ ヤ ノ ン 電 子 (株)	1
キ ヤ ノ ン ト ッ キ (株)	2
キヤノンメディカルシステムズ(株)	3
(株) キャピタル・アセット・プランニング	1
救 急 薬 品 工 業 (株)	1
京 セ ラ (株)	3
(公益)京都市景観・まちづくりセンター	1
京 都 府	1
協 和 キ リ ン (株)	1
ク	
ク ア ー ズ テ ッ ク (株)	1
久 保 誠 電 気 興 業 (株)	1
(株) ク ボ タ	2
ク ボ タ 環 境 サ ー ビ ス (株)	1
グラクソ・スミスクライン(株)	1
(株) ク ラ レ	5
(株) ク リ マ テ ッ ク	1
(株) ク レ ス コ	1
(株) ク レ ハ	7
グローバルウェーブ・ジャパン(株)	4
ぐんぎんシステムサービス(株)	1

企 業 名	人数
ケ	
K H ネ オ ケ ム (株)	2
京 王 電 鉄 (株)	2
経 済 産 業 省	1
K D D I (株)	2
(株) 建 構 造 研 究 所	1
(株) 建 設 技 術 研 究 所	2
コ	
(株) 小 糸 製 作 所	1
工機ホールディングス(株)	2
高 周 波 熱 錬 (株)	1
(株) 構 造 計 画 研 究 所	2
(株) 合 田 工 務 店	1
(株) コーエーテクモホールディングス	2
(株) KOKUSAI ELECTRIC	9
国土交通省 北陸地方整備局	7
コスモエネルギーホールディングス(株)	2
コスモエンジニアリング(株)	2
ゴ ッ ド ハ ン ド (株)	1
コ ニ カ ミ ノ ル タ (株)	5
(株) コ マ ス	1
小 松 開 発 工 業 (株)	1
五 洋 建 設 (株)	1
(株) コ ル グ	1
(株) コ ロ ナ	2
コンチネンタル・オートモーティブ(株)	1
サ	
サ ー モ ス (株)	2
(株) サイバーエージェント	1
三 栄 ハ イ テ ッ ク ス (株)	1
三 機 工 業 (株)	1
山 九 (株)	1
三 共 技 研 工 業 (株)	1
サンコーコンサルタンツ(株)	1
シ	
(株) シ ー ア ー ル イ ー	1
CEC 新潟情報サービス(株)	1
(株) C A C	2
(株) ジ ー シ ー	4

企 業 名	人数
(株) ジ ー シ ー シ ー	1
JRA システムサービス(株)	1
J R 東 海 (株)	3
J R 西 日 本 (株)	1
J R 東 日 本 (株)	21
(株) JR 東日本情報システム	1
JR 東日本ビルテック(株)	1
JR 東日本メカトロニクス(株)	1
J X 金 属 (株)	1
JXTG エ ネ ル ギ ー (株)	1
JFE シ ス テ ム ズ (株)	2
JFE ス チ ー ル (株)	4
JFE エンジニアリング(株)	4
(株) J C U	1
自衛隊奈良地方協力本部	1
(株) JVC ケ ン ウ ッ ド	1
(株) ジェイマックソフト	2
(株) システムインテグレータ	1
(株) システムスクエア	1
清 水 建 設 (株)	2
シ ャ ー プ (株)	2
Japan Advanced Semiconductor Manufacturing 株	3
独立行政法人住宅金融支援機構	1
シュ ー ボ ン ド 建 設 (株)	1
首 都 高 技 術 (株)	1
首 都 高 速 道 路 (株)	2
(株)東海林健建設設計事務所	2
昭 和 産 業 (株)	2
昭 和 電 工 (株)	1
昭和電線ホールディングス(株)	2
(株) シ ョ ー ワ	1
信 越 化 学 工 業 (株)	20
信 越 ポ リ マ ー (株)	3
新 光 電 気 工 業 (株)	1
シ ン ワ 測 定 (株)	2
ス	
(株)SCREENホールディングス	2
ス ズ キ (株)	4
ス タ ン レ ー 電 気 (株)	1

企 業 名	人数
(株) ス テ ッ プ ワ ン	1
(株) ス ノ ー ビ ー ク	1
(株) S U B A R U	7
住 友 化 学 (株)	2
住 友 金 属 鈦 山 (株)	1
住友ケミカルエンジニアリング(株)	1
住 友 ゴ ム 工 業 (株)	3
住 友 重 機 械 工 業 (株)	2
住友生命保険相互会社	1
住 友 ベ ー ク ラ イ ト (株)	3
スリーエム ジャパン(株)	1
セ	
セイコーインスツル(株)	2
セイコーエプソン(株)	21
積 水 化 学 工 業 (株)	2
セ キ ス イ ハ イ ム (株)	2
積 水 ハ ウ ス (株)	1
(株)セグエセキュリティ	1
セ コ ム (株)	1
(株) 銭 高 組	1
ゼネラルエンジニアリング(株)	1
セ ノ ー (株)	1
(株) セ プ テ ー ニ	1
仙 建 工 業 (株)	1
仙 台 市	2
セントラルエンジニアリング(株)	1
セ ン ト ラ ル 硝 子 (株)	1
セントラルコンサルタント(株)	1
ソ	
綜 合 警 備 保 障 (株)	1
(株) 総 合 車 両 製 作 所	1
(株)総合設備コンサルタント	2
ソ ニ ー (株)	1
ソニーグローバルソリューションズ(株)	1
ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ(株)	1
(株) ソ ニ ッ ク ム ー ブ	1
(株)ソフトクリエイティブホールディングス	2
ソ フ ト バ ン ク (株)	4
ソ マ ー ル (株)	1

企 業 名	人数
(株) ソ リ マ チ 技 研	4
タ	
ダイヤモンドヘッド(株)	1
第一三共プロファーマ(株)	1
タ イ ガ ー 魔 法 瓶 (株)	1
大 成 建 設 (株)	5
(株) ダ イ セ ル	1
大 東 建 託 (株)	2
ダ イ ニ チ 工 業 (株)	7
大 日 精 化 工 業 (株)	5
大 日 本 印 刷 (株)	4
太 平 洋 セ メ ン ト (株)	4
(株) ダ イ ヤ メ ッ ト	2
ダイヤモンドエンジニアリング(株)	1
(株) 太 陽 工 機	3
大 洋 興 業 (株)	1
太 陽 日 酸 (株)	4
太 陽 誘 電 (株)	8
大 和 ハ ウ ス 工 業 (株)	1
大和ライフネクスト(株)	1
(株) 高 田 建 築 事 務 所	1
高橋カーテンウォール工業(株)	1
(株) タ マ ス	1
チ	
中 央 電 子 (株)	1
中 外 製 薬 工 業 (株)	2
中 部 電 力 (株)	3
千 代 田 化 工 建 設 (株)	1
ツ	
ツ イン バ ー ド 工 業 (株)	8
(株) ツ ガ ミ	2
(株) ツ ム ラ	2
テ	
T I S (株)	2
D I C (株)	2
テ ィ ア ン ド エ ス (株)	1
T H K 新 潟 (株)	1
(同) D M M . c o m	1
D M G 森 精 機 (株)	1

企 業 名	人数
テ イ エ ス テ ッ ク (株)	1
(株) DNP 情 報 シ ス テ ム	2
(株) D J K	1
帝 人 (株)	5
(株) デ イ ス コ	1
T D K (株)	14
DATUM STUDIO (株)	1
(株) テ ク ノ ス ジ ャ パ ン	1
(株) テ ク ノ プ ロ R & D 社	1
(株) テ ク ノ プ ロ ・ エ ン ジ ニ ア リ ン グ 社	1
(株) デ ザ イ ン ネ ッ ト ワ ー ク	1
デジタルデータソリューション(株)	1
デ ジ タ ル プ ロ セ ス (株)	1
テックプロジェクトサービス(株)	2
(公財) 鉄道総合技術研究所	1
テ ル モ (株)	2
デ ン カ (株)	5
電 源 開 発 (株)	5
(株) デ ン ソ ー	4
デ ン ソ ー テ ク ノ (株)	1
(株) デ ン ソ ー テ ン	1
(株) テ ン ダ	1
電 力 中 央 研 究 所	1
ト	
東 亜 合 成 (株)	2
(株)東海メディカルプロダクツ	1
(株)東海理化電機製作所	1
東 急 建 設 (株)	2
東 京 エ レ ク ト ロ ン (株)	21
東 京 エ レ ク ト ロ ン F E (株)	1
東京ガスエンジニアリングソリューションズ(株)	3
東京電力ホールディングス(株)	14
東 京 都	1
東京貿易エンジニアリング(株)	1
(株) 東 芝	1
東芝ITコントロールシステム(株)	1
東芝インフラシステムズ(株)	2
東芝エネルギーシステムズ(株)	1
東 芝 テ ッ ク (株)	2

企 業 名	人数
東芝テック画像情報システム(株)	1
東芝デバイス&ストレージ(株)	1
東芝デバイスソリューション(株)	1
東芝プラントシステム(株)	2
東 芝 ホ ー ム テ ク ノ (株)	1
東 芝 ラ イ フ ス タ イ ル (株)	1
東 ソ ー (株)	8
(株) 東 邦 ア ー ス テ ッ ク	1
東 邦 亜 鉛 (株)	2
東 北 エ プ ソ ン (株)	1
東 北 電 力 (株)	24
東北電力ネットワーク(株)	7
東洋インキSCホールディングス(株)	2
東洋エンジニアリング(株)	1
東洋製罐グループホールディングス(株)	1
東 洋 紡 (株)	4
東 レ (株)	1
東レ・ファインケミカル(株)	1
DOWA ホールディングス(株)	5
(株) ト ー エ ネ ッ ク	1
(株) ト ー キ ン	1
T O T O (株)	1
(株) ト ク ヤ マ	1
(株) ト ク ヤ マ デ ン タ ル	1
ド コ モ ・ サ ポ ー ト (株)	1
(独) 都 市 再 生 機 構	1
栃 木 県	1
凸 版 印 刷 (株)	6
ト ッ プ 工 業 (株)	1
(株) ト ッ プ ス	1
富 山 小 林 製 薬 (株)	1
(株) 富 山 村 田 製 作 所	1
(株) ト ヨ タ シ ス テ ム ズ	2
ト ヨ タ 自 動 車 (株)	2
(株) 豊 田 自 動 織 機	2
ト ラ ス コ 中 山 (株)	1
(株) ト ラ ン ザ ク シ ョ ン ・ メ デ ィ ア ・ ネ ッ ト ワ ー ク ス	1
ナ	
(株) ナ カ ニ シ	2

企 業 名	人数
中 日 本 高 速 道 路 (株)	3
長野県飯田OIDE長姫高等学校	1
長 野 日 本 無 線 (株)	1
ナ ト コ (株)	1
ナノメートルアーキテクチャー	1
ナ ブ テ ス コ (株)	1
ナ ミ ッ ク ス (株)	9
(株)ナルサワコンサルタント	1
ニ	
新 潟 県	3
新 潟 市	2
新潟県保健環境科学研究所	1
新潟大学／電子情報通信プログラム	1
新潟ダイヤモンド電子(株)	2
新 潟 太 陽 誘 電 (株)	2
(株) 新 潟 テ レ ビ 21	1
新潟・ハシモト・エネルギー(株)	1
(株)ニイガタマシンテクノ	3
(株) ニ コ ン	4
西 松 建 設 (株)	1
日 亜 化 学 工 業 (株)	1
日 油 (株)	4
日 揮 (株)	2
日 揮 グ ロ ー バ ル (株)	4
日 揮 触 媒 化 学 (株)	1
日 弘 ビ ッ ク ス (株)	1
(株)日産オートモーティブテクノロジー	1
日 産 化 学 (株)	5
日 産 自 動 車 (株)	7
日 産 車 体 (株)	1
日 清 製 粉 (株)	1
日 新 製 薬 (株)	1
日 総 工 産 (株)	1
日鉄エンジニアリング(株)	1
日 鉄 物 産 (株)	1
日 東 シ ン コ ー (株)	1
日 東 電 工 (株)	5
(株) n i t t o h	1
日 本 化 薬 (株)	5

企 業 名	人数
日 本 精 機 (株)	11
日 本 精 工 (株)	8
日 本 製 紙 (株)	2
日 本 製 鉄 (株)	2
日 本 ゼ オ ン (株)	3
日 本 電 気 (株)	19
日 本 電 気 硝 子 (株)	1
日本電気航空宇宙システム(株)	1
日 本 電 工 工 業 (株)	1
日本ペイントホールディングス(株)	3
(株) ニ デ ッ ク	3
ニ プ ロ (株)	1
日 本 I B M (株)	1
日本音響エンジニアリング(株)	1
(株)日本海コンサルタント	2
日 本 ガ イ シ (株)	1
(株)日本クライメイトシステムズ	1
国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構	2
日 本 原 燃 (株)	1
日 本 原 燃 分 析 (株)	1
日 本 工 営 (株)	1
日 本 航 空 電 子 工 業 (株)	1
日 本 光 電 工 業 (株)	4
日本シビックコンサルタント(株)	1
(株) 日 本 総 合 研 究 所	1
日本タタ・コンサルタンシー・サービス(株)	1
日本テキサス・インスツルメンツ合同会社	1
日 本 発 条 (株)	2
日本ヒューレット・パッカード(株)	1
(株) 日 本 フ ァ イ ン ケ ム	2
日本モレックス合同会社	1
(株)ニューフレアテクノロジー	1
ヌ	
スヴォトンテクノロジージャパン(株)	2
ネ	
(株)ネクスコ・エンジニアリング新潟	2
ネットワンシステムズ(株)	1
ノ	
(株) 野 村 総 合 研 究 所	2

企 業 名	人数
ハ	
パーソルテンプススタッフ(株)	2
V A I O (株)	1
(株) ハ イ ン	1
パシフィックコンサルタンツ(株)	1
(株)長谷コーポレーション	1
(株)波多野調査設計	1
パ ナ ソ ニ ッ ク (株)	1
パ ナ ソ ニ ッ ク ITS (株)	1
(株)パナソニックシステムネットワークス開発研究所	1
浜 松 ホ ト ニ ク ス (株)	2
パラマウントベッド(株)	1
企業組合針谷建築事務所	1
パワーテックテクノロジー秋田(株)	1
(株) バ ン ダ イ	1
(株)バンダイナムコスタジオ	1
ヒ	
(株) B F T	1
(株) P F U	1
東日本NSソリューションズ(株)	1
東 日 本 高 速 道 路 (株)	10
日 立 化 成 (株)	2
日 立 建 機 (株)	2
(株) 日 立 シ ス テ ム ズ	4
(株) 日 立 製 作 所	3
日 立 造 船 (株)	3
(株)日立ソリューションズ	4
(株)日立ソリューションズ・クリエイト	1
(株)日立ソリューションズ・テクノロジー	1
日立ニコトランスミッション(株)	1
(株) 日 立 ハ イ テ ク	2
(株)日立ハイテクノロジー	1
(株)日立ビルシステムズ	1
(株)日立プラントコンストラクション	1
日 野 自 動 車 (株)	1
B I P R O G Y (株)	1
ヒ ロ セ 電 機 (株)	1
フ	
(株) F i r s t S e e d	1

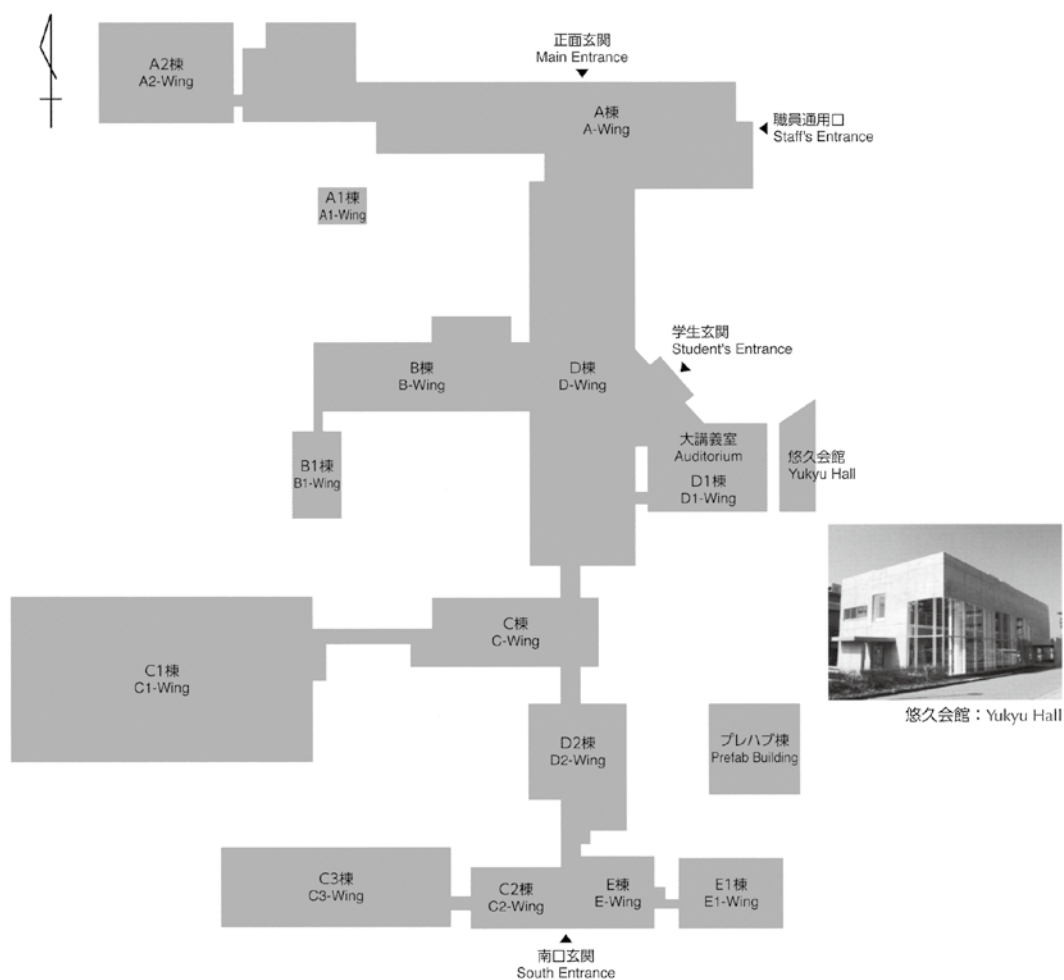
企 業 名	人数
フ ァ ナ ッ ク (株)	4
フ ォ ス タ ー 電 機 (株)	1
(株) 福 井 村 田 製 作 所	4
福 島 県	1
(株) 福 田 組	3
フ ク ダ 電 子 (株)	2
(株) フ ジ ク ラ	4
(株) フ ジ ク ロ	1
富 士 工 業 (株)	1
(株) 不 二 越	2
富 士 石 油 (株)	1
富 士 ソ フ ト (株)	2
富 士 通 (株)	7
富士通クライアントコンピューティング(株)	1
富 士 通 J a p a n (株)	1
(株) 富 士 通 ゼ ネ ラ ル	2
(株)富士通新潟システムズ	1
フ ジ テ ッ ク (株)	1
富 士 電 機 (株)	6
富士フイルムイメージングシステムズ(株)	2
富士フイルムヘルスケア(株)東京都港区	1
富士フイルムメディカル(株)	1
富士フイルムメディカルITソリューションズ(株)	1
富士フイルム和光純薬(株)	1
富士フイルムワコーケミカル(株)	2
フ タ バ 産 業 (株)	1
フ ユ ー チ ャ ー (株)	2
プライムアースEVエナジー(株)	3
(株) ブ リ ー チ	1
(株) ブ リ ズ ス ト ン	1
ブリヂストンソフトウエア(株)	1
古 河 機 械 金 属 (株)	1
古 河 電 気 工 業 (株)	5
(株) フ ル ヤ 金 属	1
(株) ブ レ イ ン パ ッ ド	1
文化財建造物保存技術協会	1
ヘ	
(株)ベネッセコーポレーション	1
(株) ベ リ サ ー プ	1

企 業 名	人数
ホ	
ボーラ化成工業(株)	2
北越工業(株)	5
北越コーポレーション(株)	2
北銀ソフトウェア(株)	1
北電情報システムサービス(株)	1
北陸ガス(株)	10
北陸電力(株)	11
ボゾリスソリューションズ(株)	1
北海道	1
北海道電力(株)	1
(株)北海道日立システムズ	1
ボツシユ(株)	3
本田技研工業(株)	15
(株)本間組	1
本間道路(株)	1
(株)本間利雄設計事務所	1
マ	
マイクロウェーブファクトリー(株)	4
マイナビEdge	1
(株)マキタ	2
マツクス(株)	7
マツダ(株)	3
(株)松田平田設計	1
マニ－(株)	2
マブチモーター(株)	1
真室川町役場	1
(株)MARUWA	1
マレリ(株)	1
ミ	
水澤化学工業(株)	1
三谷産業イー・シー(株)	1
三井E&Sマシナリー	1
三井化学(株)	7
三井化学アグロ(株)	1
三井化学東セロ(株)	1
三井金属エンジニアリング(株)	1
三井金属鉱業(株)	1
三井住友建設(株)	1

企 業 名	人数
三井製糖(株)	1
三菱ガス化学(株)	4
三菱ケミカル(株)	4
三菱電機(株)	9
三菱電機ITソリューションズ(株)	1
三菱電機ビルテクノサービス(株)	1
三菱マテリアル(株)	8
三菱UFJインフォメーションテクノロジー(株)	2
(株)三菱UFJ銀行	1
ミネベアミツミ(株)	10
(株)ミマキエンジニアリング	1
ミラクシアエッジテクノロジー(株)	1
ム	
(株)村田製作所	4
メ	
(株)明治	1
(株)メイテック	3
(株)明電舎	2
(株)メビウス	4
モ	
(株)モバイルテクノ	3
盛岡市	1
(株)モリタ製作所	1
(株)モルテン	1
ヤ	
矢崎総業(株)	5
八千代エンジニアリング(株)	2
ヤフー(株)	5
山形県	1
ヤマザキマザック(株)	1
大和ライフネクスト(株)	1
ヤマハ(株)	1
ユ	
(株)ユアテック	1
(株)ユー・エス・イー	1
UTグループ(株)	1
(株)ユポ・コーポレーション	1
ヨ	
(株)陽進堂	1

企 業 名	人数
横浜ゴム(株)	1
横浜市	1
ラ	
ライオン(株)	1
(株)ライフ設計事務所	1
楽天(株)	1
楽天カード(株)	1
(株)ラック	2
リ	
(株)リアルゲイト	1
リオン(株)	2
リオンスerviceセンター(株)	1
(株)LIXIL	2
リケンテクノス(株)	2
(株)リコー	2
菱機工業(株)	2
ル	
ルネサスエレクトロニクス(株)	6
レ	
レキオスソフト(株)	1
(株)レゾナック	1
レバレジーズ(株)	1
レンゴ－(株)	1
ロ	
ローム(株)	1
ローランド(株)	1
ワ	
(株)ワイエムシィ	1
YKK(株)	8
YKKAP(株)	7
他 大 学	2
新潟大学大学院自然科学研究科博士後期課程	23
	1413

工学部建物配置図



「悠久会時報」より

新潟大学工学部同窓会（悠久会）では、各支部での同窓生の活動などに加えて、在学生の活動について、独自の機関誌「悠久会時報」の年2回（春と秋）発行により、お知らせしています。

以下に、悠久会時報第145号（令和6年4.30発行）の中から、学生活動支援事業の報告記事をご紹介します。「悠久会」をご理解頂く上で、ご参考になれば幸いです。

ロボコンプロジェクト 活動報告書

知能情報システムプログラム3年 松田拓未
私たちロボコンプロジェクトは、NHK学生ロボコンで優勝すること、また技術力を向上することを目的として、日々ロボット製作しています。

NHK学生ロボコンは、NHKが主催する日本国内のロボット競技会であり、アジア太平洋放送連合が主催するABUロボコンの日本代表選考も兼ねています。競技のルールはその年のABUロボコン開催国が決定し、それに即したロボットを毎年製作します。

今年度のABU2024の開催国はベトナムで、競技内容はベトナムの棚田を模したものです。今年の競技ルールは5年ぶりに自動ロボット（試合中の操作が認められないロボット）が必要なルールで、自動ロボットで様々な色の種類のボールの識別や位置の測定を行い、ボールを回収する内容です。これまで、私たちはデブスカメラを利用した深層学習による物体検出手法や距離推定を行い、自動でボールを回収できるように制御プログラムの実装や機体の製作を行ってきました。

現在、検出精度の向上や移動の高速化などに尽力し、今年こそNHK学生ロボコンで優勝できるように日々活動しております。

NHK学生ロボコン以外の活動としては、これまで問題であった実戦経験不足を解消するために東海ロボコンをはじめとした様々な大会に出場したり、中学生へNHK学生ロボコン2023の機体のデモや展示を行い、ものづくりの楽しさを伝えられるようにする活動などを行ってきました。

最後に、私たちの日々の活動は、新潟大学悠久会様の資金援助をはじめとした皆様方のご支援、ご協力によって支えられています。この場をお借りしてお礼申し上げます。

CANSAT(カンサット)プロジェクト実施報告書

プロジェクト代表 機械システム工学プログラム2年
佐藤友哉

私たちCANSATプロジェクトは、惑星探査機を模したCANSATと、固体燃料と液体酸化剤を用いたハイブリッドの学生ロケットの開発を通して、機械工学や航空宇宙工学の学びを深めると共に、技術力の向上を目指して日々活動しています。

そもそもCANSATとは、飲料用の缶（CAN）サイズの超小型人工衛星（SATELLITES）のことで、“CAN SATELLITES”を省略した造語です。また、その製作活動自体を呼称することもあり、「世界最小の宇宙開発」と言われています。私たちは、超小型人工衛星のなかでも特に惑星探査機を模したCANSATの開発を中心に活動しています。

私たちは検証実験の機会として、毎年8月に秋田県能代市で開催される国内最大級の宇宙イベントである能代宇宙イベントに参加し、カムバックコンペティションでの優勝及びロケットの打ち上げ成功を目指して活動しています。カムバックコンペティションとは、上空約50m～150mから気球またはドローンによってCANSATを投下し、自動制御によってゴールに到達する能力を競う競技となっており、ゴールからの距離によって順位が決まります。この競技は、地上に着地してから地面を走行してゴールに近づくランバック部門と、パラセイルを落下中に自動制御して上空から直接ゴールに近づくフライバック部門の二つの部門に分かれています。また、ロケット部門では競技の勝敗ではなくハイブリッドロケットの共同打ち上げ実験を行っています。

今年度の能代宇宙イベントには、ランバック部門に2チーム、ロケット部門に1チームが参加しました。ランバック部門では、3年生チームが51cm手前でのゴールとなり、全体約30チームのなかで2位という結果になりました。また企業特別賞もいただくことが出来ました。2年生チームは大会初参加ということもあり、地上に着地後、走行を開始できなかったという結果になりました。これらの結果を活かして、現在はアメリカで行われる大会への参加に向けて活動をしています。ロケット部門では、技術継承を目的とし、機体の大型化などに取り組みながら、見事3年連続3回目の打ち上げを成功させることができました。推力不足により目標としていた高度に達することが出来なかったものの、原因の究明を行い、また各パートにおける技術継承という目的を果たすことが出来ました。このような結果を出すことができたのは、新潟大学悠久会様をはじめ、様々な方のご支援があったからこそだと感じております。来年度は、今年度機体のより一層の改良で新たな大会への参加を目指し、更なる飛躍と発展をしていきたいと考えております。

最後になりますが、新潟大学悠久会様からご支援いただきましたことをこの場を借りて心より御礼申し上げます。

ご案内します ― 悠久会館内部探索

悠久会館の入り口から入って会館内をぐるっと回りながら、中の様子をご紹介します。まずは、正面入り口（写真1）から。最外側は自動ドアではないので、手動で開けてください。次は自動開閉です。入るとすぐに（写真2）のような空間が広がります。吹き抜け、かつ右側は全面ガラス張り。晴れ晴れとした気分になります。夏暖かく冬寒い？



写真1. 正面入り口



写真2. ものづくりスペース

入り口を入ってすぐ左手には、アーカイブスペースがあります。（写真3、4）。著名な業績を残された同窓生を称えるため顔写真付きのパネルを展示しています。みなさんの先輩方にあたりますので、ぜひご覧ください！



写真3. パネル展示



写真4. 悠久会館の外から

そこから右に目を転じると、何やらバーカウンター（写真5）の様なもの！そして、左隣が悠久会事務室です（写真6）。内部を詳しくご覧になりたい方は、是非ご訪問ください。



写真5. バーカウンター？



写真6. 悠久会事務室

下からアーカイブを見上げるとこんな感じです（写真7）。



写真7. アーカイブス



写真8. 新潟学振興会



写真11. プロジェクトオフィス5



写真9. 骨董的門札



写真12. お〜い

さて、階段を上がって2階に行ってみましょう。左手に新潟学振興会の部屋(写真8)と工学力センター分室があり、部屋の前の一角に、かつて長岡校舎の門柱に掛けられていた「長岡高等工業学校」、「長岡工業専門学校」、「新潟大学工学部」の表札(写真9)が展示してあります。また、ご寄付いただいた中村健也(電気09)さんの遺品(悠久会時報第109号をご参照ください)がアーカイブスに展示してあります(写真10)。



写真10. 中村健也氏の遺品

北側(同窓会室の真上)には「プロジェクトオフィス5」という部屋があります(写真11)。同窓生の皆様にお使いいただけるスペースとなっています。この部屋の前から1階を見下ろすと(写真12)のような感じです。アーカイブスを近くで見たのが(写真13)です。何ともいえない素敵なカーブです。

駆け足の見学でしたが、皆さん是非ご自分の目で確かめて頂きたく、ご来館をお待ちしております。



写真13. カービング・アーカイブス

会館の使用手続きについて

本会館は同窓会員・工学部教職員を対象に、科学技術に関する交流の場(ものづくりスペース、交流ホワイエ、プロジェクトオフィス5)を提供しております。ご使用に当っては、所定の使用願いを事前(一週間以上前)に大学側へ提出下さい。使用責任者が工学部教職員である場合、会館使用料は無料となりますが、その他の場合は工学部校舎と同様に多少の使用料が必要となります。なお、申請書類等につきましては同窓会事務室までお問い合わせ下さい。

新潟大学工学部の歩み

大正12年 (1923)	12月10日	長岡高等工業学校設置。校長 福田為造先生。
大正13年 (1924)	4 月	電気工学科、機械工学科、応用化学科、113名入学。
昭和2年 (1927)	3 月	第一回卒業生81名。
昭和14年 (1939)	6 月	精密機械科、工作機械科増設され、入学式。
昭和16年～20年		戦争の為に繰り上げ卒業。
昭和19年 (1944)	3月28日	長岡工業専門学校に改名。
	4 月	新学科に変更。機械科（甲組、乙組、丙組）、化学工業科。
昭和21年 (1946)	6 月	工作機械科は廃止され、精密機械科分科。
昭和24年 (1949)	5月31日	新潟大学発足。本校は包括され、新潟大学工学部となる。機械工学科、精密機械工学科、電気工学科、工業化学科が設置される。
	7 月	工学部入学式。
昭和25年 (1950)	4 月	精密機械工学科を精密工学科と改称。
昭和26年 (1951)	3 月	長岡工業専門学校廃校。27年の歴史を閉じる。
昭和31年 (1956)	4 月	工学専攻科を設置。
昭和35年 (1960)	4 月	化学工学科設置。工業化学科を応用化学科に改称。
昭和38年 (1963)	4 月	電子工学科設置。
昭和41年 (1966)	4 月	大学院工学研究科設置（修士課程）。工学専攻科廃止。
昭和42年 (1967)	4 月	土木工学科設置。
昭和45年 (1970)	4 月	雪氷工学研究室設置。
昭和47年 (1972)	4 月	雪氷工学研究施設設置。
昭和52年 (1977)	4 月	情報工学科設置。
昭和53年 (1978)	4 月	雪氷工学研究施設、積雪地域災害研究センターへの移管。
昭和54年 (1979)	4・5 月	長岡から新潟への第一次移転、電気・電子・情報・応化・化工・共通・管理部。
昭和55年 (1980)	4・5 月	第二次移転、機械・精密・土木。
昭和56年 (1981)	4 月	建築学科設置。
昭和61年 (1986)	4 月	大学院工学研究科生産科学専攻設置（後期3年博士課程）。
昭和62年 (1987)	4 月	大学院工学研究科生産科学専攻は、大学院自然科学研究科生産科学専攻が設置され、移行。
平成元年 (1989)	4 月	工学部の9学科が改組され、5大学科（機械システム工学科、電気電子工学科、情報工学科、化学システム工学科、建設学科）となる。
平成3年 (1991)	4 月	新潟大学地域共同研究センター設置。
平成5年 (1993)	4 月	財団法人新潟工学振興会設立。
平成6年 (1994)	4 月	機能材料工学科設置。
平成10年 (1998)	4 月	福祉人間工学科設置。
平成13年 (2001)	2 月	「新潟大学工学部80周年記念事業期成会」の認可。新潟大学科学技術交流悠久会館の建設等を目的に募金を開始（募金免税対象）。同窓会も悠久会館建設のための「80周年記念事業募金」を実施。
平成15年 (2003)	6月14日	新潟大学工学部創立80周年記念式典。
	8月3日	80周年記念全国総会（長岡で）。
平成16年 (2004)	4月1日	国立大学の法人化により「国立大学法人新潟大学」となる。
	4月1日	新潟大学全学同窓会連絡協議会の設立。
	8月31日	新潟大学科学技術交流悠久会館の建設にむけての募金活動終了。
平成19年 (2007)	3 月	新潟大学科学技術交流悠久会館完成
平成23年 (2011)	3 月	東日本大震災のため、卒業式祝賀会および全国理事会の開催中止。
平成25年 (2013)	7月6日	新潟大学工学部創立90周年記念式典。 90周年記念全国総会。
平成29年 (2017)	4 月	工学部7学科（1学年定員480名）が工学科1学科（1学年定員530名）に再編、改組され、9主専攻プログラム（機械システム工学、社会基盤工学、電子情報通信、知能情報システム、化学システム工学、材料科学、建築学、人間支援感性科学、協創経営）となる。

- 令和元年（2020） 6 月 工学部創立100周年記念事業実施委員会開催。
12月 1 日新潟大学工学部創立100周年記念事業の一環として100周年記念募金を開始。
- 令和 5 年（2023） 3 月 100周年記念募金終了。
6 月 3 日新潟大学工学部創立100周年記念式典。
7 月15日100周年記念全国総会（長岡 米百俵総会）。
9 月 新潟大学工学部100周年史刊行。
- 令和 6 年（2024） 3 月19日新潟大学工学部教育研究支援基金設立。
11月19日「新潟大学工学部創立100周年記念事業寄付者ご芳名」銘板設置。

歴 代 理 事 長

代	氏 名	在 任 年 月
初代理事長	黒 田 清（機2）	昭和16. 7（昭和16.7出征）
2代 ♪	下 田 信 次（機2）	♪ 16. 7—昭和22. 5
3代 ♪	上 村 清五郎（応3）	♪ 22. 5— ♪ 38.10
4代 ♪	丸 山 一 雄（応13）	♪ 38.10— ♪ 54. 5
5代 ♪	栗 原 道 樹（応16）	♪ 54. 5—平成 5. 6
6代 ♪	永 井 淳 夫（機23）	平成 5. 6— ♪ 10. 7
7代 ♪	内 田 力（機43）	♪ 10. 7— ♪ 24. 7
8代 ♪	本 合 邦 彦（機43）	♪ 24. 7—令和元年. 6
9代 ♪	寺 尾 正 義（電52）	令和元年. 6— 現在

歴 代 校 長 及 び 学 部 長

代	氏名	在任年月	同窓会（在任年月）
初代校長	福 田 為 造	大正12.12—昭和14.7	会長（昭和2.3—昭和14.7）
2代 ♪	坪 井 道 三	昭和14. 7— ♪ 20.11	♪ （校長在任期間）
3代 ♪	山 本 純 如	♪ 20.11— ♪ 26. 3	♪ （昭和20.11—昭和27.8）
初代学部長	山 本 純 如	♪ 24. 5— ♪ 32. 3	名誉会長（昭和27.8—昭和32.3）
2代 ♪	山 崎 貫 三	♪ 32. 4— ♪ 36. 3	♪ （学部長在任期間）
3代 ♪	高 沢 十三郎	♪ 36. 4— ♪ 40. 3	♪ （ ♪ ）
4代 ♪	柴 田 雄三郎	♪ 40. 4— ♪ 42. 3	♪ （ ♪ ）
5代 ♪	遠 藤 壽 一	♪ 42. 4— ♪ 44. 2	♪ （ ♪ ）
6代 ♪	脇 屋 正 一	♪ 44. 3— ♪ 46. 2	♪ （ ♪ ）
7代 ♪	近 藤 誠 治	♪ 46. 3— ♪ 48. 2	♪ （ ♪ ）
8代 ♪	小 林 宇五郎	♪ 48. 3— ♪ 50. 2	♪ （ ♪ ）
9代 ♪	遠 藤 壽 一	♪ 50. 3— ♪ 54. 2	♪ （ ♪ ）
10代 ♪	斉 藤 昇	♪ 54. 3— ♪ 56. 3	♪ （ ♪ ）
11代 ♪	酒 井 信 之	♪ 56. 3— ♪ 60. 3	♪ （ ♪ ）
12代 ♪	下 田 茂	♪ 60. 4— ♪ 62. 3	♪ （ ♪ ）
13代 ♪	阿 部 武 雄	♪ 62. 4—平成 3. 3	♪ （ ♪ ）
14代 ♪	一 宮 亮 一	平成 3. 4— ♪ 7. 3	♪ （ ♪ ）
15代 ♪	斉 藤 義 明	♪ 7. 4— ♪ 11. 3	♪ （ ♪ ）
16代 ♪	長谷川 富 市	♪ 11. 4— ♪ 15. 3	♪ （ ♪ ）
17代 ♪	仙 石 正 和	♪ 15. 4— ♪ 19. 3	♪ （ ♪ ）
18代 ♪	大 川 秀 雄	♪ 19. 4— ♪ 23. 3	♪ （ ♪ ）
19代 ♪	坪 川 紀 夫	♪ 23. 4— ♪ 25. 3	♪ （ ♪ ）
20代 ♪	金 子 双 男	♪ 25. 4— ♪ 26. 1	♪ （ ♪ ）
21代 ♪	田 邊 裕 治	♪ 26. 2— ♪ 29. 3	♪ （ ♪ ）
22代 ♪	小 椋 一 夫	♪ 29. 4—令和 3. 3	♪ （ ♪ ）
23代 ♪	鈴 木 敏 夫	令和 3. 4—令和 5. 3	♪ （ ♪ ）
24代 ♪	鈴 木 孝 昌	令和 5. 4— 現在	♪ （ ♪ ）

（令和5年12月現在）



新潟大学科学技術交流「悠久会館」

同窓生のネットワークづくりや産官学交流の拠点。工学部同窓会の事務局があり、みなさんも気軽に立ち寄り、活用できる施設です。青柳卓雄氏（パルスオキシメータ発明）、中村健也氏（トヨタ自動車クラウン開発）など、著名な業績を残された同窓生のパネルや資料が展示されています。